

「(仮称) 第二次多摩市読書活動振興計画」市民意見交換会について (報告)

1 実施場所・参加人数

各図書館または近隣施設の全7会場で実施した。

参加人数合計：42人

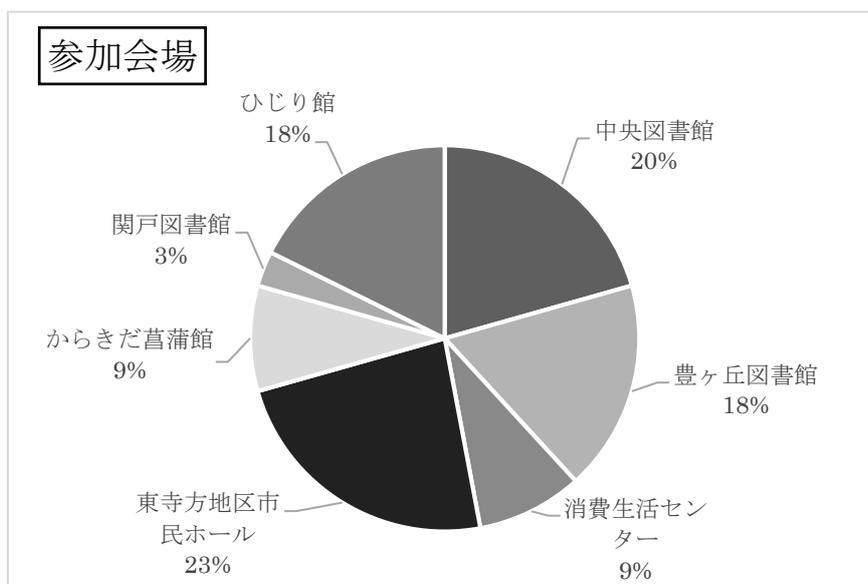
日時	会場	参加人数
1月18日(土) 午前10時～11時30分	中央図書館 活動室1	9人
1月18日(土) 午後2時30分～4時	豊ヶ丘図書館 学習室	7人
1月22日(水) 午後6時～7時30分	消費生活センター(ベルブ永山) 講座室	4人
1月25日(土) 午前10時～11時30分	東寺方地区市民ホール 第一会議室	8人
1月25日(土) 午後2時～3時30分	からきだ菖蒲館 会議室3	4人
1月26日(日) 午前10時～11時30分	関戸図書館 活動室	3人
1月26日(日) 午後2時～3時30分	ひじり館 会議室2・3	7人

2 アンケート

回答数：34件

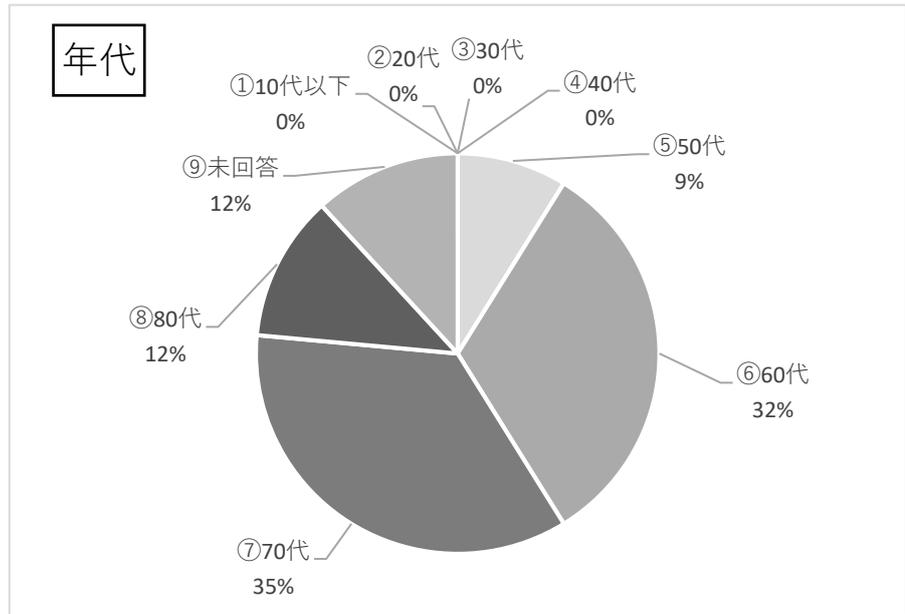
(1) 参加会場

参加会場	回答数
中央図書館	7
豊ヶ丘図書館	6
消費生活センター	3
東寺方地区市民ホール	8
からきだ菖蒲館	3
関戸図書館	1
ひじり館	6
合計	34



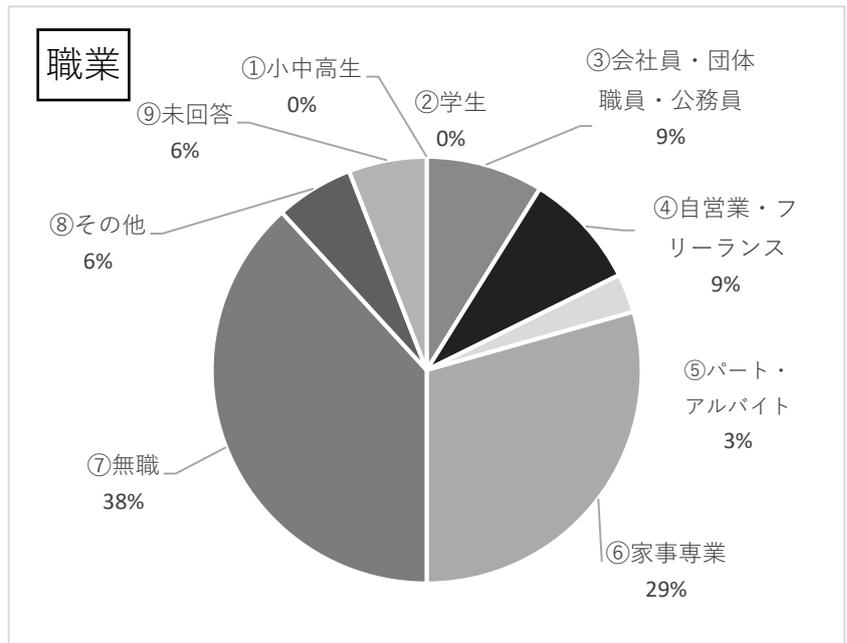
(2) 年代

年代	回答数
①10代以下	0
②20代	0
③30代	0
④40代	0
⑤50代	3
⑥60代	11
⑦70代	12
⑧80代	4
⑨未回答	4
合計	34



(3) 職業

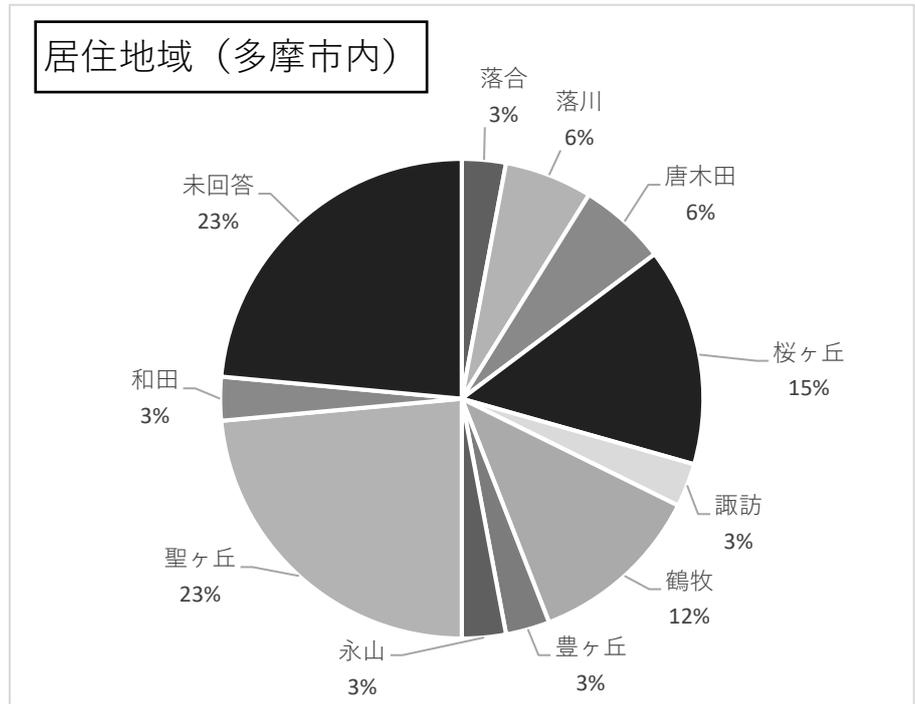
職業	回答数
①小中高生	0
②学生	0
③会社員・団体職員・公務員	3
④自営業・フリーランス	3
⑤パート・アルバイト	1
⑥家事専業	10
⑦無職	13
⑧その他	2
⑨未回答	2
合計	34



(4) 居住地域

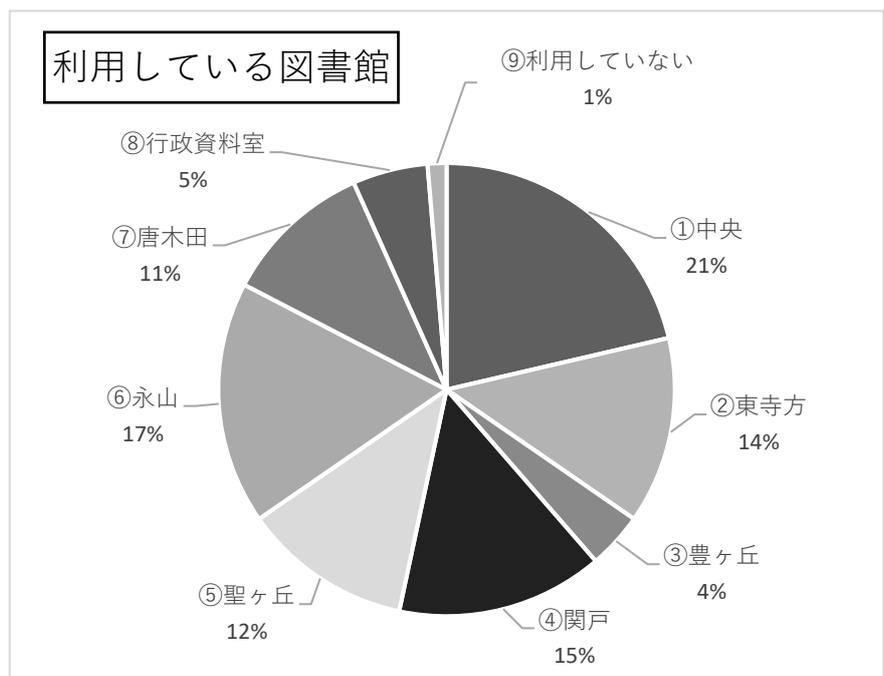
居住市	回答数
①多摩市	33
②多摩市以外	0
③未回答	1
合計	34

居住地域	回答数
落合	1
落川	2
唐木田	2
桜ヶ丘	5
諏訪	1
鶴牧	4
豊ヶ丘	1
永山	1
聖ヶ丘	8
和田	1
未回答	8
合計	34



(3) ふだん利用している図書館（複数回答可）

利用している図書館	回答数
①中央	16
②東寺方	10
③豊ヶ丘	3
④関戸	11
⑤聖ヶ丘	9
⑥永山	13
⑦唐木田	8
⑧行政資料室	4
⑨利用していない	1
合計	75



3 意見交換会・アンケートの主な意見（実施会場順）

(1) 中央図書館

意見の種類	意見の概要
計画内容	・「市民の「知る」を支援する」という目標を達成するための問題点を整理し、読書活動振興計画という名前に限らず改善内容を計画に盛り込んでほしい。
広報 (基本方針1)	・広報に力を入れて図書館サービスを色々な方に知ってもらえるようにしてほしい。
中央館の席利用 (基本方針1)	・中央図書館の席について。自習席としての利用が多数を占めているため、ゾーニングを変えることも含めて検討してほしい。
子ども読書 (基本方針2)	・児童書コーナーへの職員の常駐やフロアサービスにより、子供達の話聞く場所を作してほしい。 ・子どもの読書活動推進のためには、図書館での活動だけでなく、小学校や児童館など図書館以外の地域施設とどう連携していくのが重要。
イベント (基本方針3)	・読書会など人とコミュニケーションを図る場所があればいいと思う。 ・図書館で行う市民活動は本に関わることも多いので、中央図書館は活動室の部屋にとどまらず、書架の近くのオープンスペースで活動することも良いと思う。
近隣施設との連携 (基本方針3)	・多摩中央公園がグランドオープンすると、図書館利用者の世代層などが変わると思う。公園の利用者が図書館も利用できるようなWin-Winの方針を立ててほしい。公園のグランドオープンを上手く利用して欲しい。
市民ニーズの把握 (基本方針4)	・今回のような市民の意見を聞く機会を重ね、図書館について市民、利用者と一緒に考え、運営改善をするよう計画に盛り込んでほしい。 ・中央図書館での利用者懇談会は毎年開催した方が良い。 ・職員からの声かけや館内の巡回により、その場でコミュニケーションが発生するのではないかと。利用者が実際に困っている時に職員がキャッチできる体制が必要。
計画の推進体制	・計画の推進体制のなかに、図書館協議会での報告・評価が入っているが、図書館協議会は事業計画の評価だけでなく、他の事項についても議論を行ってほしい。

(2) 豊ヶ丘図書館

意見の種類	意見の概要
広報 (基本方針1)	・どの図書館で各サービスを受けられるのか、積極的にPRして市民に知らせてほしい。 ・図書館行事をもっとPRして欲しい
若者の利用 (基本方針1)	・中央図書館に来館している若者は自習目的の方が多い。そのような若者をどう図書館と結びつけるかが課題である。
高齢者の利用 (基本方針1)	・子どもの利用者を増やしたい要望が多かったが高齢者の利用者も増やす検討をして欲しい。
多文化	・各地域館でも外国語資料を所蔵しコーナーを設置してほしい。外国語資料の所蔵

(基本方針1)	は、外国人利用者が自分の居場所があると感じることにもつながり、重要である。
子ども読書 (基本方針2)	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの利用が少ない館については理由を考えるとともに、身近な図書館に子どもが行き、楽しめる方法を考えたい。 ・おはなし会は図書館の事業であるので、すべてをボランティアに任せるのではなく、合同に実施する等で関わってほしい。 ・図書館で習慣的に保育園等の大人数の対応をすることは困難であろうから、そこでボランティアが協力することができないか。 ・永山図書館の職員によるおはなし会は、保育園に図書館が声をかけ来てもらっているようである。ボランティア等によるおはなし会でも地域の保育園などの児童施設に参加を呼びかけてほしい。
蔵書 (基本方針3)	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者は身近な地域の図書館を利用するため、しっかりとした蔵書を揃えてほしい。
資料の提供 (基本方針3)	<ul style="list-style-type: none"> ・紙の図書以外の情報源の提供にも今後力を入れてほしい。 ・東京新聞の多摩版なども、インターネット上で見られるようになると便利である。
各図書館の地域性 (基本方針3)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域館ごとにそれぞれ「長居可能」、「おしゃべり可能」といった利用の特徴を持たせれば良いのではないか。
読書活動 (基本方針3)	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとりひとりの読書活動だけではなく、小さなグループで行う機会も増やしてほしい。
運営体制 (基本方針4)	<ul style="list-style-type: none"> ・今後計画を立てていく中で、人の配置が最も重要であると考え。職員・サービスの質を中央館だけでなく地域館でも職員の質を担保してほしい。 ・「市民の知る」をしっかり支える図書館になってほしい。職員が専門職集団として技量を高めていけるような制度を望む。 ・特に人材が一番肝要だと思うので、職員体制と育成計画をこの計画に明確に盛り込んでほしい。

(3) 消費生活センター（永山）

意見の種類	意見の概要
計画時期	<ul style="list-style-type: none"> ・計画期間を上位計画や他課の関連する計画と期間を合わせてもらえると良い
他計画との関係 実施時期・方法	<ul style="list-style-type: none"> ・既にある本館再整備基本計画、管理運営方針等の実績や結果はどうだったのか。それらの計画と新計画との関連性や改善方法、新計画の各事業の時期・実施方法を市民に見えるように書いてほしい。
若者の利用 (基本方針1・2)	<ul style="list-style-type: none"> ・若者の利用促進が大事。小学校2年生に行っている図書館訪問を中1で実施し、電子図書館の使い方や調べ方案内などをしてほしい。
子ども読書 (基本方針2)	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの読書活動推進計画について、計画が一緒になっても連絡会は子供の読書の推進に大事だと思うので、引き継いで実施してほしい。
子ども読書・蔵書 (基本方針2・3)	<ul style="list-style-type: none"> ・マンガについて、学習漫画等は寄贈であれば収集する等の受入体制を考えてほしい。

蔵書・職員 (基本方針3・4)	<ul style="list-style-type: none"> ・多摩市の行政の課題に関する資料を職員が勉強し、提供できるように収集してほしい。レファレンスしたくなるような図書館になってほしい。
計画の推進体制	<ul style="list-style-type: none"> ・計画として書かれたことが実現されたかどうか見えたほうが良い。 ・データをどのように集めて分析に活かしたのか、わかるようにしてほしい。 ・アンケートや利用者懇談会など、市民の声を取り入れて改善する計画にしてほしい。
永山図書館改修	<ul style="list-style-type: none"> ・配置を変更し席を増やすなど、中央図書館のように若者が集まる図書館にしてほしい。 ・改修後も障がい者向けの対面朗読や打ち合わせのスペースは残してほしい。中央図書館は通いづらいため、永山に障がい者向けのエリアを残してほしい。 ・多摩市の図書館はおはなしの部屋がないところが多いが、部屋はあったほうが良い。おはなし会を楽しめる部屋を中央図書館以外も作ってほしい。 ・現在の永山図書館は、おはなし会はオープンな空間であるが声が聞こえてきても許容されている感じもある。おはなし会を行っている団体と話しあって決めてほしい。

(4) 東寺方地区市民ホール

意見の種類	意見の概要
子ども読書 (基本方針2)	<ul style="list-style-type: none"> ・小学2年生より低年齢の図書館訪問の実施も検討してほしい。 ・図書館へ足を運ぶ機会のない親子に出張お話をするなど、身近な場所で本を親しむ機会を提供し、子どもと本をつなげてほしい。 ・ボランティアが行うおはなし会でも職員の方には参加してほしい。ボランティアの方と連絡をとりあって密な関係性をつくってほしい。
蔵書 (基本方針3)	<ul style="list-style-type: none"> ・中央図書館の開館に伴い東寺方の蔵書数が減った。図書館は資料や空間が大事なので蔵書数は戻してほしい。
レファレンス・蔵書の充実 (基本方針3)	<ul style="list-style-type: none"> ・レファレンス・調べ物・課題解決支援、図書館活用講座、多摩市らしい地域資料の収集・提供を充実してほしい。
資料の提供 (基本方針3)	<ul style="list-style-type: none"> ・国立国会図書館のホームページ等、電子情報の案内もできるようにしてほしい。
資料の電子化 (基本方針3)	<ul style="list-style-type: none"> ・行政資料のデジタル化を行ってほしい。
各図書館の地域性 (基本方針3)	<ul style="list-style-type: none"> ・各図書館の地域性について、各図書館の職員が市民との対話しながら決めてほしい。今回の市民意見交換会のような、市民のニーズを把握する機会を計画に盛り込んでほしい。 ・中央図書館に全て集約するのではなく、各図書館に権限を与え、地域館の特性を生かした柔軟な対応をしてほしい。
施設整備	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の見直しについて、図書館の具体的な施設の考え方を示してほしい。地域館が

(基本方針3・4)	<p>存続し本来の役割が果たされるよう、計画内に明示してほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ会館になる図書館（東寺方・豊ヶ丘）がどのような図書館になるのか本計画に明記してほしい。 ・計画について、市民から出たアイデアを落とし込むシステムが必要。 ・東寺方は図書館、児童館、福祉館と各組織の縦割りになりがちなので、現場の職員が入り複合館全体としての話し合いが必要だと思う。
各館での意見交換 (基本方針3・4)	<ul style="list-style-type: none"> ・各図書館の館長やスタッフとの利用者との意見交換があると良い。地域のニーズや課題は地域それぞれである。運営側の課題も利用者と共に考えていきたい。
ボランティア (基本方針4)	<ul style="list-style-type: none"> ・東寺方は若い世代の住民が増えており、よりよい図書館や新しい仕組みができる可能性がある。サポーターシステム的なようなものができてほしい。市民のパワーを利用すべき。
運営体制 (基本方針4)	<ul style="list-style-type: none"> ・唐木田図書館が委託、東寺方が非常勤職員で運営試行中とのことだが、長年そのままなので方向性を決めるべきではないか。
市民ニーズの把握 (基本方針4)	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の声をどれくらい反映して実現できているのかを知りたい。
計画の推進体制	<ul style="list-style-type: none"> ・計画の推進体制があるが、市民による評価がない。施策22に市民ニーズの把握があるので、推進体制に市民の参加を追加し、図を修正してほしい。 ・計画の推進体制に図書館協議会による評価があるが、図書館協議会が計画の評価のみにならないようにしてほしい。

(5) からきだ菖蒲館

計画の該当部分	意見の概要
計画内容	<ul style="list-style-type: none"> ・市民が読んでも理解できるよう、できるだけ分かりやすい表現で書いてほしい。
各館の役割	<ul style="list-style-type: none"> ・概要版のP4に行政資料室の説明を追加して、独自の役割を持っていることを示すべき。
蔵書 (基本方針3)	<ul style="list-style-type: none"> ・コミックは購入しないそうだが、学習漫画などは買ったほうが良いと考える。 ・開架書架を見るだけで閉架書庫の存在を知らない人は多いのではないか。
運営体制 (基本方針3・4)	<ul style="list-style-type: none"> ・職員体制を含め、地域館の運営について計画の中で検討してほしい。 ・職員数の増加が理想だが、職員1名＋専門スタッフという体制を最低限維持する必要がある。地域館の特性を活かすには、応援ではない中心となる職員が必要。
各館のサービス (基本方針3・4)	<ul style="list-style-type: none"> ・蔵書や面積を除いては、どの図書館でも同じサービスを受けられることが重要。各館の差がないように計画を練ってほしい。 ・地域性を活かし新たなサービスをするならば、中央図書館とのコミュニケーションが大切ではないか。 ・地域館の閉館時間が17時だと早い。せめて18時にしてもらえないか。 ・開館時間延長も含め、サービスを拡大し地域の人が利用しやすくしてほしいという気持ちはわかるが、図書館の根幹も踏まえううえで、バランスを取りながら見直して

	いく必要がある。
ボランティア (基本方針4)	・ボランティアが図書館業務に参加できる制度などができれば、開館時間が延長できるだけでなく、参加市民の生きがいとしても良いのではないかと。

(6) 関戸図書館

計画の該当部分	意見の概要
読書バリアフリー (基本方針1)	・バリアフリーへのアプローチが必要な地域館でこそPRするべきでは。
子ども読書 (基本方針2)	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館でない場（乳幼児検診、幼児教育の場など）と図書館が連携するのがとても重要。「縦割り行政」ではなく横のつながりを作してほしい。 ・なぜ市立小中学校が特別なのかがわかる記述が必要。 ・幼稚園・保育園・児童館などに図書館のが届いていない。図書館のサポートやボランティアとどう関わっていくのか、道筋を立てたほうがいい。 ・おはなし会の参加人数が減り、低年齢化している。学校でおはなし会があれば、普段おはなしに触れる機会の少ない子どもに手が届き、図書館の情報も届けられる。 ・現場で子どもたちに接しながら学ぶ体制をつくってほしい。子どもとの関わりには積み重ねが必要。 ・国の有識者会議でも、低学年には（電子よりも）紙が良いという意見が出ている。早い時期から紙の本に触れておくべき。 ・これからの教育のありかたに沿って、電子図書館を活用してほしい。 ・時代の要請に応えられる組み立てが重要。図書館サービスが大きく変化するつもりで計画してほしい。
各図書館の地域性 (基本方針3・4)	<ul style="list-style-type: none"> ・関戸図書館が駅前だけでない特色が必要。 ・地域との接点をどう持つのか、抜本的に考える必要がある。 ・行政資料室を安易に議員だけでなく市民の要望も踏まえたサービスのあり方の検討を盛り込んでほしい
運営体制 (基本方針4)	<ul style="list-style-type: none"> ・館長の兼務体制を解消することを盛り込んでほしい。すぐに解消できないのであれば、負担軽減を考えてほしい。 ・DXによる業務の見直しは図書館では不可欠。市としても取り組んでいる。業務の見直しとして取り組んでほしい。 ・「これは中央の担当」などと縦割りにならないようにしてほしい。

(7) ひじり館

計画の該当部分	意見の概要
計画名称	・多摩市の図書館のことについての基本方針となっているが、「読書活動振興計画」とひとくくりにするのはおかしいと思う。仮称であっても見直してほしい。
関連データ・方針	・地域の人口構成、男女構成、年齢構成等が提供してあると計画を考えやすい。

	<ul style="list-style-type: none"> ・多摩市全体の図書館の基本方針・運営方針をこの中に盛り込んでほしい。
重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な根幹業務は変わらないと思うので、5年先などを見据えて重点的にやることをピックアップしてほしい。
子ども読書 (基本方針2)	<ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせをボランティアで行っているが、本来的には図書館の基本的なサービスだと思う。
蔵書	<ul style="list-style-type: none"> ・中央館が開館してから本（特に絵本）が少なくなったと感じている。棚をブラウジングして借りる人もいるので、地域館の蔵書は減らさないでほしい。 ・特に子どもは書棚を見て借りることが多いので、子どもに届けたい本は地域館の書架に揃えてほしい。
各図書館の地域性 市民ニーズの把握 (基本方針3・4)	<ul style="list-style-type: none"> ・聖ヶ丘図書館に高齢者向けの資料や福祉などの市のパンフレットを設置するなど、課題解決支援をしてほしい。聖ヶ丘図書館は高齢者の利用が多く付近には福祉関係の施設が多いため、福祉に対するニーズが高く、コンパクトに地域が繋がっている。図書館も蔵書構成や展示などを工夫してほしい。 ・利用者構成を十分に踏まえた計画にしてほしい桜ヶ丘都立公園などの自然環境や近隣施設を踏まえた地域資料があれば、地域性が上がると思う。 ・図書館職員と利用者が意見交換できる環境を作ることで、地域性の高い図書館が生まれると思うので、職員にもそういった意識を持ってほしい。 ・書架をロビーにも配置して、融合的にしたほうが若い人も使いやすいと思う。近くに児童館もあるが、子どもたちはロビーまでは出てくるが図書館内には入ってこない。ブラウジングコーナーをもう少しロビー寄りにするなど、使い方を変えるだけで利用者層が変わると思う。 ・複合館なので、複合施設の話し合いの場で今回のような意見交換ができればいいと思う。
運営体制 (基本方針4)	<ul style="list-style-type: none"> ・聖ヶ丘図書館は正規職員がおらず、館長は3つの館を兼務しているためほとんど聖ヶ丘図書館にいない。体制を整備して正規職員を配置してほしい。 ・計画で方向性を出していくとのことだが、民間委託と直営の費用面での精査をされているのであれば、金額を公にしてほしい。 ・仕事後は自宅近くの図書館の開館時間に間に合わず、職場の近くの図書館を利用することがある。開館時間を延ばすことで利用者の年齢構成が変わるきっかけになるのではないかと。
計画の推進体制	<ul style="list-style-type: none"> ・他市では、アンケートなどを実施して様々な評価を踏まえたうえで総合的に評価していると思う。現在の多摩市で行っている図書館の自己評価と照らし合わせた評価のみでは総合的な評価ではなく説得性が少ないので、見直す余地があると思う。